

1. 令和 4 (2022) 年度日本 SPF 豚協会年次報告

日本 SPF 豚協会

令和 5 年 3 月末現在の SPF 豚認定農場数は 176 農場（内 GGP・GP 農場 18、一貫生産・繁殖専門農場 108、子豚育成専門農場・肥育専門農場 50）であった。認定農場数は 4 農場増加した。飼養母豚数は 74,481 頭と 2,767 頭（3.6%）減少した。

生産成績を昨年度（2021 年度）と比較してみると、一貫生産農場では、農場回転数、農場飼料要求率、1 母豚当り年間肉豚出荷頭数はいずれも横這いだった。出荷肉豚 1 頭当りの A 分類薬品費は増加した。総合生産指数は横這いだった。繁殖専門農場（繁殖-II）では、分娩回数、出荷子豚 1 頭当り A 分類薬品費は横這いだった。1 母豚当り年間出荷子豚頭数・年間離乳頭数は減少した。総合生産指数は横這いだった。肥育専門農場（肥育-II）では、飼料要求率は改善された。肉豚出荷率も改善傾向だった。出荷肉豚 1 頭当り A 分類薬品費は減少し、総合生産指数も増加した。

2. 国内における PRRS の発生状況と流行株について

農研機構動物衛生研究部門 高木 道浩

PRRS は我が国を含めた世界の養豚産業において経済損害を与える疾病としてあげられ、1980 年代に出現したウイルス疾病である。初めてウイルスが分離されてから 30 年以上が経過しているが、その間、ワクチンや飼養衛生管理基準などの手法により病態や被害が軽減はしているものの、時間の経過と共にウイルスの遺伝的多様性が認められ、さらに新たに侵入したと考えられるウイルスにより時として甚大な被害をもたらしている。国内で流行しているウイルスは 5 つのクラスターに分けることができるが、これまで主流であるクラスター II や III は遺伝的多様となり、2008 年に初めてクラスター IV に属するウイルスが分離されて以降、国内では、このクラスターに属するウイルス株が増加している。最近の国内におけるクラスター IV に属する PRRS ウイルスの解析を中心とした発生状況を紹介する。

3. 養豚の生産性向上および感染症制御を目的とした疫学研究

明治大学農学部農学科 佐々木 羊介

近年、養豚生産農場では、育種改良による多産系母豚の導入、多頭飼育の導入、ICT 機器の導入が急激に進んでいますが、その一方で、生産効率や生産コストに関する課題、家畜感染症への対策、多頭飼育下における管理方法の確立など、様々な課題が挙げられます。今後、我が国における安心安全な食料資源の確保を目的とした持続可能な養豚生産を目指すためには、これらの問題を解決するための客観的かつ科学的な飼養管理体制の確立が必須となります。演者は、養豚の生産性向上および感染症制御を目的として、養豚生産農場から得られる生産記録を用いた疫学研究や養豚生産農場で調査を行った野外試験を実施してきました。その中で、当日は養豚生産農場における生産成績の定量化や適切な飼養管理の探査、疫学的アプローチによる感染症の発生予防に資する防疫体制の確立に関する研究の成果について紹介いたします。